2019年11月 例会報告

日時　2019年11月9日（土）13時30分～16時30分

場所　板橋グリーンホール６階

11 月例会は、11 月 9 日㈯ 13 時 30 分より、板橋グリーンホールにて開催されました。

はじめに会長の北岡淳子氏のご挨拶があり、つずいて田中裕子氏（鎌倉市）と遠藤ヒツジ氏（大田区）のスピーチと自作詩の朗読がありました。

講演は岡耕秋氏による「300 万難民の記憶　引揚詩を遺す」で、私たちがほとんど目を向けてこなかった敗戦前後の満州の様子、難民となった 300 万人もの人々の塗炭の苦しみなどが、当時の詩とともに語られました。次の小講演（詩と語り）①では柳生じゅん子氏によって、引揚者がようやくたどり着いた内地ではどんな思いをしてきたか、その悲しみと辛さを乗り越えてきた姿をえがいた詩「母の帽子」が朗読されました。②では谷口ちかえ氏により、「もう一つの戦争＜戦後＞からの出発と決別」というテーマで、植民地政策という歴史の断片としてとらえると同時に、これからについてが語られました。

講演終了後には日本詩人クラブの「第 3 回　新しい詩の声」の授賞式が行われました。最優秀賞には伊藤凪菜氏の「最果ての漁師」と中田野絵美氏の「窓の外の反逆」が、優秀賞には加勢健一氏の「うその花束」と君嶋復活祭氏の「君が人間じゃなければよかった」がそれぞれ選ばれました。

司会進行は下川敬明氏と宮本苑生氏。講演要旨と当日の出席者は「詩界通信」90 号に掲載いたします。　（文責　谷口典子）

≪朗読者と朗読作品≫　（敬称略）

田中裕子　「ここだけの話」「お父さんが」

遠藤ヒツジ「名前」

講演「300 万難民の記憶　引揚詩を遺す」岡耕秋氏

朗読とスピーチ　田中裕子氏

朗読とスピーチ　遠藤ヒツジ氏

小講演（詩と語り）①　柳生じゅん子氏

小講演（詩と語り）②　谷口ちかえ氏

「第３回　新しい詩の声」授賞式

左から　君嶋復活祭氏　加勢健一氏　中田野絵美氏　伊藤凪菜氏